在京白堊會報

第18号
平成17年３月25日
発行
在京白堊会
〒101-0025 東京都千代田区
神田佐久間町1-11
産報佐久間ビル
産報出版（株）内
TEL&FAX（03）3254-9301
http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm

在京白堊會

5月14日㊏アルカディア市ヶ谷で開催

～今年のテーマは、「科学の最先端」と「ふるさとの香り」～

日時：5月14日（土）午後4時～
場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
会費：一〇，〇〇〇円（年会費二，〇〇〇円を含む）
学生・院生　三，〇〇〇円（同右）

クジラ肉で盛り上がった35周年記念総会のあとを引継ぐ幹事は難しい、と嘆いていてもはじまりません。本年の幹事を務めます48年卒は、手作りの味で、皆さんに楽しんでいただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

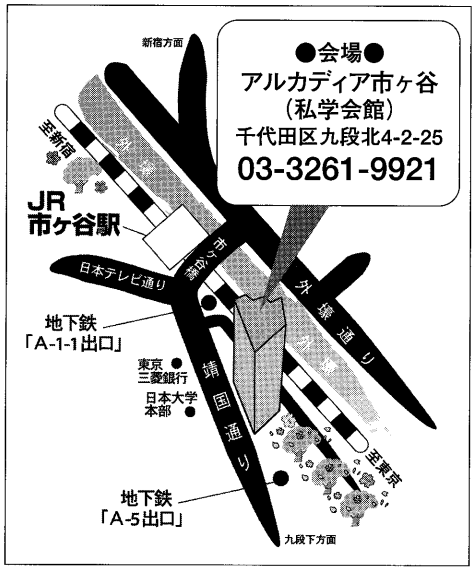
第一部は、超伝導研究のトップランナーとして活躍する村上雅人君に「常識という殻をやぶる科学の挑戦」と題して、科学の最先端をわかりやすく話してもらいます。

「超伝導」なんて何やら難しげな：と思わないでください。実験道具を宇宙に運び出すときの苦労話とか、最先端の科学がぐっと身近に感じられるエピソードと実演をまじえてのお話になる予定です。

昨年の総会のアトラクション

第二部の会場には、ジャズの演奏でお迎えしたいと思います。ジャズのどこが「ふるさとの香り」か、なんてつっこまないでください。懇親会場で「ふるさと」を思い出していただけるよう準備中です。乞うご期待。

●会場●
アルカディア市ヶ谷
（私学会館）
千代田区九段北4-2-25
03-3261-9921



講師とテーマのご紹介

『常識という殻をやぶる科学の挑戦』
〈講　師〉**村上雅人**（49卒）

村上君は、盛岡一高３年の時にAFSにて1年間アメリカに留学したため、卒業は49年になりましたが、私たち48卒の同期生です。東京大学工学系大学院博士課程終了後、新日本製鉄、超伝導研究所などを経て、現在、芝浦工業大学に勤務しています。20年前、常温超伝導が時の話題となるや、超伝導研究のトップランナーとしてテレビでも注目をあつめました。現在、宇宙での超伝導実験などの国際プロジェクトを推進するリーダーとして活躍しています。「常識を持つということは、人間関係を良好に保つためには重要なことです。しかし、科学分野においては、常識を捨て去ることにこそ技術革新の芽があります。」

展示書籍募集

総会の書籍展示コーナーに展示する白堊会員の著書・書籍を募集します。希望者は著書・書籍を下記宛お送り下さい。会場での販売は行いません（希望者には注文書を配布）ので、1タイトル1冊。展示後は母校・盛岡一高の図書室に寄贈させていただきます。返却はいたしませんのでご了承下さい。
（著書・書籍送付先）株式会社建築空間研究所
〒151-0073渋谷区笹塚2-19-3 7F　戸田　純　宛て
電話 03-3299-2755　**※平成17年4月28日（木）必着。**

ところで、各界で活躍されている同窓会員の皆さまには、著書をお持ちの方も多数いらっしゃるかと思います。本年の企画の一つとして、それらの著作を会場内に展示して、ご披露したいと考えております。また、本会終了後、それらを盛岡一高図書室に寄贈し、在学中の後輩たちに、同窓生の活躍の一端を示してはどうかと考えております。趣旨にご賛同いただける方は、４月28日までに、出欠ハガキの宛先（戸田）にお送りください。なお、出欠のご連絡は、同封のハガキにて、遅くても４月28日までにお願いいたします。
（48年卒）

昨年の総会風景

お願い
総会欠席の方は、同封の振替用紙で会費二，〇〇〇円を振込み願います。

●3月10日

昭和20年3月10日未明、B29 313機が焼夷弾二〇〇〇トンを空から投下し東京大空撃を行った。死者は十万人に達した。

盛岡も編隊を離脱したB29一機によって駅前と大沢川原に焼夷弾を投下され、155戸焼失。被災者613名、死者3名、傷者5名の犠牲者が出た。

この3月10日という日は、日露戦争で日本が奉天入城した日。明治38年3月10日、奉天入城した日は陸軍記念日に制定されていた。

ちなみに肉弾戦を戦ったとされる日露戦争での日本軍の死者は8万人。盛岡南部家42代伯爵、南部利祥（としなが）陸軍騎兵中尉も、この日露戦争の奉天戦に従軍中、24歳の若さで戦死された。その銅像は、岩手公園の中に建つ。

●真珠湾攻撃に参加

太平洋戦争での白堊会の先輩も多く戦死されました。

小田島敬二元海軍上等兵曹（昭和13年卒）は、盛中出身者として唯一、ハワイの真珠湾攻撃に参戦。空母6隻から発進した353機の1機に乗り込んだ。このハワイ戦からは無事帰還したが、昭和17年4月4日、フィリピンコレヒドール島上空で戦死された。

●水泳オリンピック指名選手

日大の水泳部に進み、水泳のオリンピック選手に指名されていた越戸優一元陸軍上等兵（昭和13年卒）、柔道の佐藤眞一先生（昭和6年4月～同16年4月）もフィリピンの戦闘で全軍布告の感状を戴き戦死された。

陸軍大尉佐藤眞一率いる佐藤工兵隊は「敵上陸軍に対し果敢なる挺進奇襲を決行」とその奮戦が新聞にも報道された。

●暁部隊

戦況が思わしくなくなると、暁部隊が編成され、全国で30部隊3000名程の少年兵が船舶特別幹部候補生として召集された。ベニヤ板の舟に250キロ爆弾を積んで敵に突っ込む海上特攻部隊である。この暁部隊に入った盛岡中学生が3名ほどいるが、ついに彼らは還らなかった。

また、特別攻撃機で戦死された盛中出身者は、

工藤　太郎（昭和16卒）
菊池　　久（昭和15卒）
佐々木榮吉（昭和15卒）
江田　耕二（昭和18卒）

の4名。この中に、陸軍の海上特攻で亡くなられた盛中生は入っていない。

●シベリア抑留

昭和20年8月15日、終戦の詔勅により、復員が始まった。しかし同級生の荒谷多喜男君（昭和18卒）はシベリヤ抑留され戦病死された。同じく同級の伊藤盛君（昭和18卒）は船舶特攻にてフィリピンにて戦死された。仙台二中に転校した同級の加茂信也君は、仙台空襲にて二高在学中、死亡された。

この他にも多くの先輩が戦争で亡くなられている。

当時の中学では「発火演習」という軍事訓練がずっと行われていた。盛岡中学にも配属将校がいて、軍事訓練が行われた。

あの啄木が「おれも中隊長になって指揮をとりたい」と日記に書いているが、当時はそういう時代だった。

それでも私たちの時代までは、授業がちゃんと行われ、勉強も一所懸命やっていた。

下級生たちは勤労動員で松尾鉱山などに狩り出されるようになった。

本土総決戦に備え、一億玉砕の準備も着々と整えていた。

こうした時代を、今、批判するのはやさしい。しかし、現在の世の中がどこに向かっているか、果たしてどれだけの人が意識しているのか。

気付いたときに手後れにならないよう生きることが肝要だ。

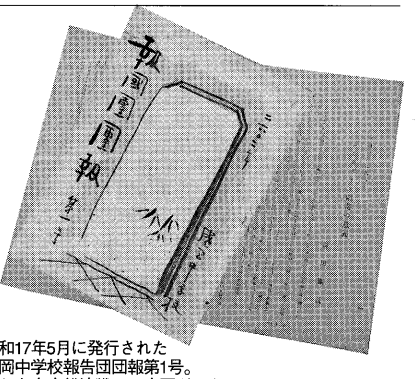
若き日の高橋元昭・元校長（円内）と、高橋元昭・元校長が八重畑達男氏の卒業アルバムに記念に寄せた揮毫（写真左）。高橋元校長にとって盛中は初任地だった

終戦60年を迎えて

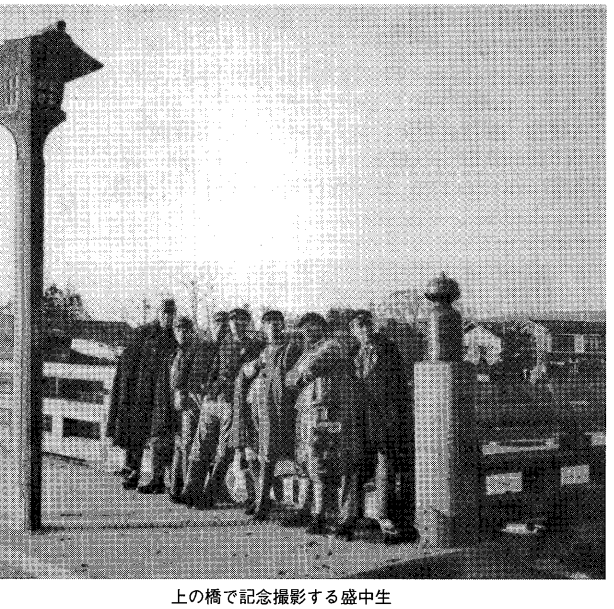
八重畑達男（昭和18年卒）

今年は終戦60年目となる。戦後世代が還暦を迎える。かつて戦争は、白堊健児の運命を翻弄した。そんな歴史を知らない世代が大多数となる。しかし、同じ道をたどらないためにも、戦争がいかに青少年の夢を奪ったか、正視しなければいけない。それは、白堊に学んだ者の使命だと思う。戦争という渦中に、何を思い、どう生きたかを八重畑達男先輩に書いていただいた。

佐藤工兵隊の活躍を報じた当時の新聞



昭和17年5月に発行された盛岡中学校報告団団報第1号。これも本土総決戦への布石だった

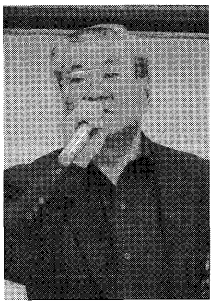


上の橋で記念撮影する盛中生

●トピックス

メキシコ五輪サッカー日本代表主将
八重樫茂生さん（昭和27年卒）サッカー殿堂入り！

5月から文京区のサッカーミュージアムで写真展示


八重樫茂生さん
（昭和27年卒）

メキシコ五輪サッカー日本代表主将の八重樫茂生さん（昭和27年卒）がサッカー殿堂入りしました。以下に、**平成17年3月11日付、岩手日報・夕刊の記事全文**を紹介します。

なお、写真は平成16年11月18日、日立市サッカー協会主催で行われた元・鹿島アントラーズ監督、宮本征勝選手（日立一高→早稲田。今回一緒に殿堂入り）の追悼式で八重樫茂生さんが講演されたときのものです。村野井徹夫さん（茨城大学工学部教授：昭和35年卒）が撮影したものです。

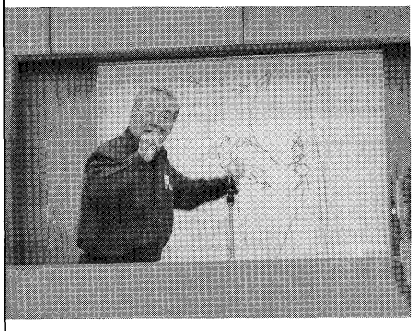
日本サッカー協会は十日の理事会で第一回「日本サッカー殿堂」入りの20人を決め盛岡一高出身（→早大）で1968年のメキシコ五輪日本代表の主将を務めた八重樫茂生氏（71歳、日野市在住）が選ばれた。八重樫氏はメルボルン、東京、メキシコと三度の五輪に出場し、メキシコ五輪では銅メダルを獲得した。殿堂入りに「驚いたが、光栄に思う。五輪に出場した当時を思い出した」と感慨に浸っている。

八重樫氏は早大2年のときの1956年にメルボルン五輪にCFで出場。古河電工入りして、64年の東京五輪ではMFとしてベスト8進出に貢献した。現役引退後は日本ユース、日本代表コーチとして国際競技力の向上に尽力。富士通総監督、ジェフ市原スーパーバイザーなどを歴任した。

八重樫氏は「東京五輪で選手強化したことがメキシコでのメダル獲得につながった。釜本邦茂、杉山隆一ら当時のメンバーとともに殿堂入りできて本当にうれしい。集合写真を何度も見返した」と喜びを語った。

県サッカー協会の小野寺吾老会長は「八重樫さんの功績は日本のサッカー界にさんぜんと輝くものだ。本県にとってもたいへん喜ばしい」と祝福した。

なお、5月から文京区のサッカーミュージアムで写真などの展示が行われます。



（写真上）日立商工会議所で講演する八重樫茂生さん。（写真左）フォーメーションの説明をする八重樫茂生さん。「釜本の右に出るストライカーはまだいない」とか、結構べらんめぇで面白かったとは、撮影した村野井徹夫さんの弁です。

●トピックス

「第四の感色層を有するカラーネガフィルムの発明」
佐々木登さん（昭和42年卒）紫綬褒章授章

佐々木　登さん
（昭和42年卒）

昭和42年卒、疾風会の佐々木登さん（富士写真フィルム株式会社）が、平成16年春の褒章で技術開発分野における貢献が認められ、「紫綬褒章」を受章しました。受章理由は、「第四の感色層を有するカラー写真感光材料の開発と実用化」。樹木希林の有名なTVコマーシャル「きれいな女性はよりきれいに、そうじゃない女性はそれなりに」という富士フィルムのカラーネガは、彼の開発した商品だったということです。平成2年に科学技術庁長官賞の研究功績者賞を受賞、平成14年全国発明表彰朝日新聞社賞を受賞したことが資格となったようです。

同時に受章された方の中には、芸術分野では女優の岩下志麻さん、映画監督の大林宣彦監督など、錚々たるメンバーが多数。佐々木登さんは、現在、研究所を離れて、同社の液晶事業の最高責任者として活躍しています。

疾風会は、今年2月19日（土）お祝いを兼ね同期会を開催し、めでたさを分かち合いました。

佐々木　登さんを囲んで写真におさまる疾風会の皆さん

白堊活躍人　吉田裕子さん（ピアニスト・平成10年卒）

大学を卒業して音楽中心の生活になった時、自分がそれとどのように生きていくかを考えるようになりました。

ピアニスト 吉田裕子さん
（平成10年卒）

演奏中の吉田裕子さん

私にとって、音楽は自分自身を反映するものです。それのみが単独で存在するのではなく、自分が経験したことや感じたこと、関わった人、すべてがつながって初めて存在し、そこから学んだ喜びや悲しみ、感謝の気持ちが私の音楽を深めてくれると思います。

また、学生の頃は気付きませんでしたが、社会に出ていろいろな場を踏んでいく中で、それまでに自分が勉強もピアノも非常に高い水準の教育を受けていたことを知りました。盛岡という地方都市にいながら、一人ひとりに与えられた環境の中で出来る限りの可能性を引き出す、これが教育の力なのだと実感しました。

将来、同じような夢を持つ子供たちに教える立場になった時に少しでも多く力になれるよう、まず自分自身が音楽にとどまらず、いろいろな勉強をしたいと思います。そして、今に生きる日本人として、一方では世界の人々と同じ喜怒哀楽を持つ一人の人間として、自分を表現していきたいと思っています。

高校時代、文武両道のもとに頑張るのは決してやさしいことではありませんでした。しかし、その辛さ以上に、遥かに大きい、一高生としての情熱、そして多くの方々の励ましがいつも私に力を与えてくれました。

高校を卒業して7年が過ぎた今も、あの日々の輝きが色褪せることはありません。東京という盛岡から離れた地で、同じ気持ちを知る多くの先輩方に私の音楽を聴いて頂けたらとても嬉しいです。

（盛岡市在住）

ピアノ 吉田裕子さん
チェコ・フィルハーモニー六重奏団
（6月21日〔水〕19:00開演 東京文化会館 小ホール）
のチケットを白堊会員に割引で提供

●白堊会会員である旨を告げて、電話で（株）ムジークレーベン Tel.03-5458-7777（平日10:00～18:00）に電話でご予約ください。
5,000円のところを会員価格**4,000**円でチケットを提供してくれるとのことです。

吉田裕子さんプロフィル

旧姓小川裕子（H12年、養子になり現姓に）。盛岡市出身。3歳より盛岡音学院に学び6歳より吉田見知子氏に師事。盛岡一高を経て、東京音楽大学卒業。これまでに吉田見知子氏の他、小林仁、草川宣雄の各氏に師事、現在に至る。第17回日本ピアノコンクール全国大会第1位。第14回国際ピアノコンクール出場。ソロリサイタルをはじめ、これまでにドイツ・バッハゾリステン、ワルシャワフィルハーモニー管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、ウイーン木管アンサンブル、アンサンブル・ウィーン、イタリア・バドヴァ管弦楽団、パイヤール室内管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー六重奏団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ライプツィヒ弦楽四重奏団などと共演。なお、吉田見知子氏は在京白堊会会員のピアニスト、森知英さん（昭和63年卒）の師でもある。

同好会活動奨励金制度発足

在京白堊会会員による同好会活動をはじめませんか

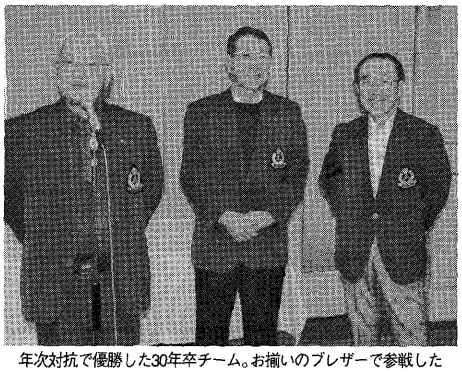
新年度から、在京白堊会会員同士でつくる同好会に対して、一定の条件を満たしたところに活動奨励金を出すことになりました。金額は年間5万円程度で、募集同好会数は4～5サークル。1サークル20人程度以上で、定期的な活動を行うサークルが対象となります。かねてから要望の強かった、年1回の総会以外に会員相互の親睦と教養の向上を図る場をつくって欲しいという声に応えたものです。すでに活動している「ゴルフ同好会」などもこの対象になります。新規の同好サークルとしては「白堊女性クラブ」「美術観賞クラブ」「古い文化建築をみる会」「白堊五行歌会」などが名乗りをあげそうです。この機会に、白堊の仲間同士で同好の士を募り親睦を図りたいという会員は、どしどし手を挙げて下さい。事務局宛、活動内容と連絡先をお知らせいただければ、次号会報の会員募集特集号でご紹介いたします。

なお、本件に関する問い合わせは在京白堊会事務局＝（注）5月13日以降、新事務局に移転＝までお願いします。

●第2回在京白堊会ゴルフ大会 優勝・年次対抗の部は「30年卒」 個人の部は小林建俊さん（36卒）

第2回在京白堊会ゴルフ大会が平成16年11月19日、ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎に13組51名が参加して行われました。結果は年次対抗はS30年卒チーム（杉渕清、玉田剛嗣、松本雄、佐藤陽二）が優勝。個人の部は優勝・小林建俊（S36年卒）、準優勝・田村晴夫（S50年卒）、3位石井充（（S42年卒）＝敬称略＝。

個人優勝の小林建俊さん（36年卒）



年次対抗で優勝した30年卒チーム。お揃いのブレザーで参戦した

編集後記

今年は終戦60年。戦争を知る白堊会員も高齢となられました。戦争体験が風化しないよう語り継ぐことも、後輩の大切な務めではないでしょうか。

なお、在京白堊会事務局が5月の総会後に変わります。新しい事務局は、〒105-0003 港区西新橋1-17-11 リバティ11ビル 8F 玉澤健児税理士事務所内。玉澤健児さんは43年卒。応援下さい。